

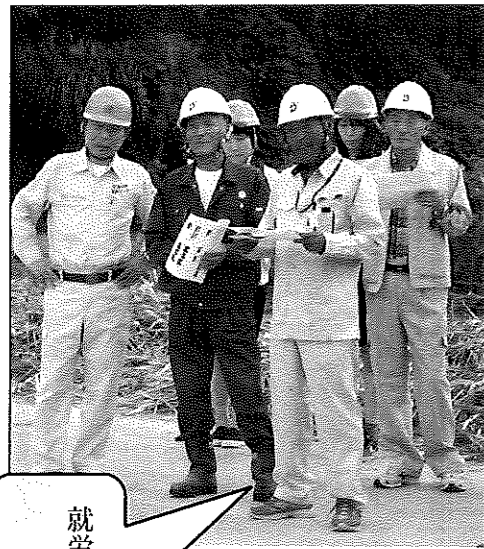
# 元高岡分会委員長の西郡外夫さんが逝去

追悼

元高岡分会委員長で、長く北陸ダンプ支部と高岡分会の活動に貢献されてきた西郡外夫さんが6月23日、逝去されました。69歳でした。西郡さんは、平成12年(2000年)3月に組合に加入し、就労交渉などでダンプ労働者の単価改善などに尽力されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



在りし日の西郡さん



就労現場を視察する西郡さん

## やんちゃで、人情味あふれる人柄

組合に入ってきたときからやんちゃで、いつも私に突っかかり、忘年会ではケンカになり、この人は何者かと思ったものだ。そんな彼を、当時、高岡分会委員長だった塩沢さんが、次の分会委員長に指名したときにはどうなるかと心配した。しかし、委員長になってからは、地

元業者との就労交渉の先頭に立ち、ときに激高し、ときに優しく論しながら、分会の団結を作り上げてきた。晩年は、船を買って漁師もしていて、私もいつか乗せてくれと言っていたが、それが叶わなかったのが心残りだ。西郡さん、お疲れさんでした。(立野正俊)

全国ダンプ部会では、全国ダンプ幹事と国交省の担当者の間でやりとりが行われました。



全国ダンプ部会が毎年5月に行っている国交省への要請行動

# 全国ダンプ部会が国交交通省に要請行動!

単価問題では、組合員が受け取っている単価は全国平均3万5000円前後で、これはダンプを1日に動かすのに必要な経費とほぼ同じ額です。市場価格任せにしていれば、国交省がいくら労務単価を引き上げても、末端のダンプは価格競争で買いたたかれるのが現実です。発注者である国交省が元請を強力に指導する必要があると訴えました。

## 安全犠牲に生活費捻出(怒)

3万5000円前後の単価でダンプ労働者はどうやって生活をしているのでしょうか。結局、タイヤ損料やダンプ整備費を削って、生活費を捻出するしかないかもしれません。つまり、ダンプ労働者は安全を犠牲にして仕事を強いられているのです。

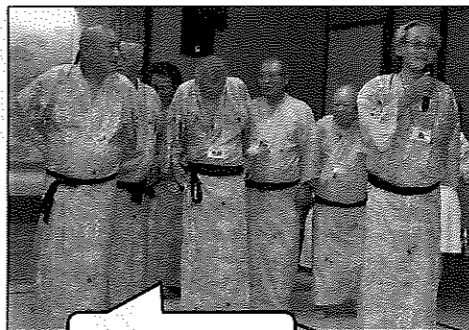
# 大会後の懇親会で、分会を超えてみんなでなかよく交流しました



金沢分会



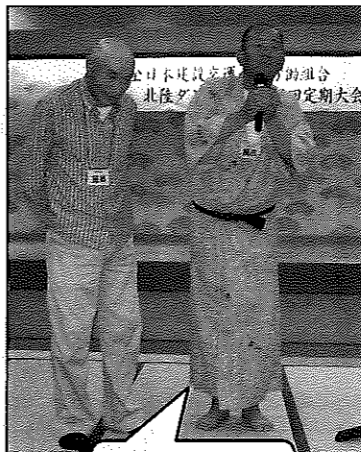
加南分会



嶺北分会



岐阜分会



高岡分会

懇親会で、各分会がそれぞれ前に出て、自己紹介を行いました。分会を超えて、交流の輪が広がっていくといいですね。



県外の組合員の皆さん

## 白ナンバー

「老後の生活費に200万円必要」という金融庁がまとめた報告書に、世間がざわつき、7月の参院選に影響が出るとして政府も慌てていますね。政府はこれま

で年金1000年安心と宣伝してきたのですから、世間がざわつくのも当然です▼ざっくりいうと、高齢夫婦2人で月の生活費は25万円ほど必要との試算があり、それに対して年金収入は20万円ほど。月5万円不足し、老後生活30年とすると、5万円×12カ月×30年で、年金以外に1800万円必要になるということですね。ただ、この話は厚生年金の場合です▼一方、ダンプ・建設一人親方は多くが国民年金です。国民年金は、保険料をきちんと40年間掛け続けて、満額でも月額6万5000円ほどです。夫婦2人なら13万円ほどです。この場合、月12万円ほど不足します。同じように計算すると、4320万円が老後に必要となります。しかも、夫婦のどちらかが先立つと、厚生年金のように遺族年金がないので、自分の年金の月額6万5000円しか収入はないという過酷さです▼自営業の人たちにとっては「老後の生活費に2000万円必要」どころか、その倍以上の資金が必要と計算上は成り立つのです。ただ、自営業者の場合、サラリーマンのように定年はないので、身体が元気なら働き続けることができます。無理のない程度で、75歳くらいまでは楽しく働けるといいですよ。それでも、10〜15年くらいは、年金と貯蓄で生活できるようにしておく必要があると思います▼政府が「年金1000年安心プラン」と選挙対策でいい加減なことを宣伝してきましたが、金融庁の報告はある意味、年金の実態をストレートに教えてくれたのだと思います。残念ながら、年金に頼らない老後の生活設計を考えるべき時代なのでしょう。

## 交通安全推進団体の証

オレンジプレート  
を掲げて仕事を  
しよう



オレンジプレートが労災保険加入者の証明になっています。仕事中は必ず掲示しましょう。

# 北村章氏(金沢)から山田満氏(嶺北)にバトンタッチ!

## 第26回建交労北陸ダンプ支部定期大会で新執行委員長を選出

新生北陸ダンプがスタート!

一人はみんなのために、みんなは一人のために

山田満新執行委員長のもと、新生北陸ダンプ支部がスタートします。6月22日、石川県七尾市の和倉温泉「のと楽」で第26回定期大会を開き、2019年度活動方針と新役員を選出しました。

新たに選任された山田満委員長は働き盛りの51歳。大幅に若返りました。組合員の高齢化が進行するなかで、若い力で組合を引っ張っていく期待のリーダーです。山田委員長は「若輩者ではありませんが、元委員長の辻さん、前委員長の北村さんの想いを継承し、先頭に立って組合と組合員のために頑張ります」と決意を述べました。

大会には、建交労石川県本部の石田直道執行委員長が来賓として出席し、あいさつをいただいたほか、建交労全国ダンプ部会、石川県労働組合総連合、日本共産党石川県委員会、石川県建設業協会、岐阜県建設業協会の各団体から祝辞のメッセージをいただきました。

大会後、「建設業退職金共済制度」に関するコンプライアンスについての勉強会も行いました。



「自分なりに精一杯がんばりたい」とあいさつする山田満新執行委員長

### 北陸ダンプの歴史を縦横に語る!

元組合専従の立野正俊さんが講演



定期大会後には、北陸ダンプ支部を立ち上げ、書記長などを歴任した立野正俊さんが「ダンプ労働者と北陸ダンプ支部の歴史」と題した特別講演で、久しぶりに立野節を披露してくれました。

ダンパー人親方を業者ではなく、労働者として認めさせた北浜裁判闘争の意義、その闘いをきっかけに最初は9人で組合を結成し、現在の250人規模にまでに発展してきた経緯を話してくれました。

相変わらず立野節は舌好調でした!(笑)

新しく選出された支部役員は次のとおり(敬称略)

- 執行委員長 山田満(嶺北分会)
- 副委員長 山田信二(岐阜分会委員長)
- 書記長 久保浩美(書記局・専従)
- 書記次長 田中清明(岐阜分会書記長)
- 新▽同 中本誠治(書記局・専従)
- 執行委員 北村章(金沢分会)
- 新▽同 蔵谷正男(金沢分会)
- 後藤誠(岐阜分会副委員長)
- 新▽同 高岡敏彦(金沢分会副委員長)
- 田出光弘(加南分会副委員長)
- ▽同 西弘明(嶺北分会委員長)
- ▽同 廣地康幸(加南分会委員長)
- ▽同 松田隆二(嶺北分会書記長)
- ▽同 山海光輝(金沢分会委員長)
- 新▽同 會計監査 松本雅春(金沢分会書記長)
- 新▽同 宮下明(金沢分会)



### 新執行委員長に山田満氏

建交労北陸ダンプ支部定期大会  
令和元年5月25日付

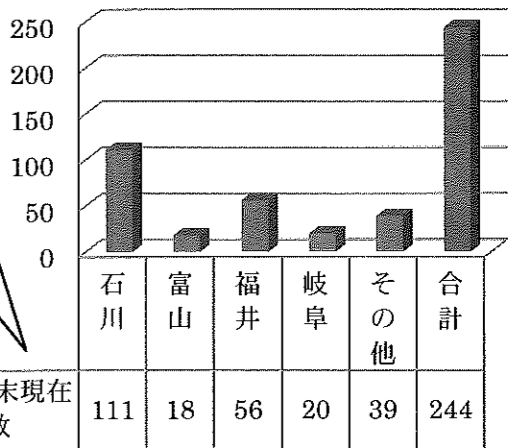
令和元年5月25日、和倉温泉「のと楽」で第26回定期大会が開かれ、山田満氏が新執行委員長に選出された。山田氏は、元専従として組合を立ち上げた立野正俊さんからバトンタッチを受け、51歳でこの重責を担うことになった。山田氏は「先任の立野さんから多くのことを学びたい」と話している。

大会では、石川県の建設業協会、日本共産党石川県委員会、石川県労働組合総連合、石川県建設業協会、岐阜県建設業協会の各団体から祝辞が寄せられた。山田氏は「先任の立野さんから多くのことを学びたい」と話している。

山田氏は、元専従として組合を立ち上げた立野正俊さんからバトンタッチを受け、51歳でこの重責を担うことになった。山田氏は「先任の立野さんから多くのことを学びたい」と話している。

### 令和最初の月は2人純増でスタート

令和に改元されて最初の月となる5月は、2人純増の幸先の良いスタートになりました。石川で1人、岐阜で1人の加入があり、退会はありませんでした。6月以降も増勢を続けましょう!



一人はみんなのために みんなは一人のために

ダンプ・

土木建設

の仲間

全労連・全日本建設交通一般労働組合

石川県本部 北陸ダンプ支部

金沢市木越町七七-二

TEL (076) 257-4885

FAX (076) 257-4886

(〒983 2019.6.25発行)